平成２７年度第２回　大和市文化財保護審議会　会議録

平成２８年２月２９日（月）
午後２時～午後４時
大和市役所第１分庁舎第３会議室

出席者等

委　員 （５名）	◎金子　皓彦、●鈴木　通大、坂本　要、田中　徳久、神崎　直美
指定管理者 （３名）	公益財団法人大和市スポーツ・よか・みどり財団
事務局 （４名）	文化スポーツ部長、文化振興課長、市史・文化財担当係長、市史・文化財担当職員
傍聴者	なし

◎…会長　●…職務代理者

公開・非公開の状況

■公開　□非公開　□一部非公開
（非公開・一部非公開の場合はその理由）

会議次第

１．開会
２．議事
　（１）平成２７年度郷土民家園指定管理業務実施状況について
　（２）平成２７年度実施の文化財関係事業について
３．その他
４．閉会

会議要旨

（○委員　▼事務局　★指定管理者）

１．開会

２．議事
　（１）平成２７年度郷土民家園指定管理業務実施状況について

★平成２７年度事業実施状況について報告。自主事業については１６事業実施。「古民家寄席」、「古民家屋根葺き替え見学デー」、「古民家園ナイトミュージアム」を新規実施。参加者数は天候に左右される。「七夕のしらべ」が雨で減少したが、その他は堅調。年中行事については１２種実施。３館合同企画展として「昔の農具の展示」（脱穀等について展示）、「古民家でひなまつり」（市域ひなまつりの風習について展

示）を実施。施設の利用促進のため、４月２５日～５月４日に民家園、キャンプ場、自然観察センターを巡る「泉の森スタンプラリー」実施。３，５８９人参加。

○昨年よりも来場者が増えている、努力のたまものか。
○月別来園者数のグラフはあり、各月の細かい数字はわかるが、全体として年ごとの変化が知りたい。市内・市外・県外全体の５年間の変化はいかがか。
★市内、市外・県外それぞれは出していないが、全体として減少傾向にある。

○作り手側の期待と結果が伴わなかった事業、あるいは期待していなかったが来園者が多かった事業等はあるか。
★予想以上に参加が多かったものは昨年８月に実施した「かまどでごはん焚き」事業。２０名募集に対し３０名近く応募があったが、スペースを確保して受け入れた。実施時のアンケートでも人気が高かったので来年度も実施したい。
★予想に反して少なかった事業は、６月に実施した「古民家寄席（落語）」。昔ながらの雰囲気の中で落語を聞くということで年配者の来場を期待していたが、６月は気候が悪く、振るわなかった。次回は気候の良いときに実施したい。

○毎年計画作成時に、評判の良かった事業は連続して実施する、或いは振るわなかった事業は変更するなど考慮しているか。また、限られた予算で事業実施するため、やりたいことができないなどの問題点はあるか。
★人気事業としては、「かまどでご飯焚き」もそうだが、「正月飾り作り」、「みそ作り」など毎年参加している人もあり、募集前に問い合わせがある。これらは基本的に継続していく。

○ひなまつり、端午の節句などは動員数が多いが、この２つは全国的に人気がある。ひな人形の展示は手間がかかり、展示期間も短いので昔は敬遠されたが、最近は人気があるようだ。また、館独自で展示などを工夫しているところもある。
○他の博物館を見て勉強する機会を設け、他館の事例を参考にしてはどうか。博物館の仕事は過密だが、新しいもの、良いものの情報を集めるためにも、勉強してほしい。
○ひな人形は子どもが大きくなり処分している家もあるのではないか。飾る機会があったら自分のひな人形を飾りたいという人もあると思うので、可能かどうかわからないが、市民に声をかければ集まるのではないか。
○公共の施設でないと展示する場所を提供することは難しいので、イベントとして実施し、ひなまつりのことを考える機会を設けるなどしてはどうか。民家園は少し狭いがたくさん集まるのではないか。
○ひな人形だけではなく、こいのぼりなどもみんなでそろって揚げるなど、散逸しないように工夫しては。
○収納場所の問題もあるが、ひな人形の寄贈にもつながりコレクションにもなるか。コレクションが増えて市民の応援が得られれば、保存施設の設置に関しても説得性が出てくるのではないか。建物ありきではなく、まず保存するものがあり、保存施設が必要という流れにもなるのではないか。

○今つる舞の里歴史資料館と下鶴間ふるさと館の状況はどうなっているか。
▼（ひなまつりの）時期なので、ふるさと館の座敷で展示を実施。歴史資料館では、つきみ野地区のサークル（老人会の手芸部）が季節の展示を盛り上げるため、協力を得て実施。
○両国駅のかつての総武線の階段を利用してひな人形を並べており、見に来る人が多い。ひな人形の展示は「段」を確保するのが難しい。空いている建物の階段を活用したらどうか。
▼今、段飾り以外にもつるし雛がはやっているか。
○つるし雛も恵方巻も関東圏の文化ではなかったが、新しい文化が入ってくるというのはそういうものか。それが継続されて新しい文化が根付いていく。

○ふるさと館・歴史資料館で同じ企画が打てるのであれば、民家園と連携してスタンプラリーのようにしてたくさんの人に見ていただけたらいい。
○スタンプラリー実施時には景品はあるのか。江ノ電などのスタンプラリーには行ったことがあるが、ささやかなものでも、景品があれば喜ばれるのではないか。
★３館合同のスタンプラリーでは記念品贈呈。泉の森スタンプラリーは景品なしだが今後考えたい。

○１０月７日実施の「薩摩琵琶演奏の鑑賞（アートバスツアー）」は財団事業か？
▼アートバスツアーは文化振興課のイベントで、旧北島家を会場として琵琶を演奏した。巡る先のポイントの一つが民家園である。
○これは財団の事業ではないから実績にはならないということか？入場者としてカウントできるのでは。
○財団と市の共催とすれば双方の事業実績になるのではないか。最近、学会の勉強会場として博物館を利用して見学会を実施するなど、共催で行う事例がある。
○近隣博物館と連携してスタンプラリーなどを実施し、入館料を安くする等の実施例もある。大学との連携や他博物館との連携なども考えては。

○新規事業で寄席をやっているが、琵琶、笛などを夜に演奏すると人が来るのではないか。

○みそ作り、七草がゆなど、季節ごとの事業のワークシートがあるとよい。子どもたちに豆知識として知ってもらうため、写真を大きく入れるなどして作ってみては。

○古民家屋根葺き替えは地味な事業だが、見学者は１４５名と関心が高かったのか。ビデオなどで記録をしていなかったか。
★動画はないが写真はある。
○写真を短いビデオなどに編集し、民家園で流すなどしてはどうか。貴重な記録である。
★こども向けのワークシートという意見があったが、ぜひ作成して小学生たちに配りたい。古民家の動画はないが、写真でそういったものが作成できるか、工夫してみたい。

○福祉関係の回想療法などに古民家などの施設を使う事例がある。松戸市などで実施。ライフヒストリー(人の一生)の聞き書きの場所としても使えるのではないか。学問的な意味ではなくボランティアが話を聞いてその人に還元するといったことが行われ、古民家がそういう場として使われている。
○我々はこれまで健常な高齢者を対象として調査しているが、これからはこういう分野も開拓しなければならないか。これからさまざまな活用の方法がありそうだ。今後は方向がもっと広がっていくか。こうしたことも念頭において対応してもらいたい。

○新規事業の中で、古民家寄席、ナイトミュージアムは思ったより少なかったということだが、企画としては楽しそうなものである。１年目で参加者が少ないからとやめるのではなく、できれば何回か実施してみて考えたらどうか。

（２）平成２７年度実施の文化財関係事業について

▼（旧北島家屋根の屋根葺き替え工事について）経年劣化した旧北島家の屋根を竹下地も含めて一度撤去し、葺き替えを行った。平成２６年１１月～２７年９月に実施。２６年度中は茅材の調達、２７年４月から９月にかけて工事実施。この間、内部観覧を制限した。期間中は指定管理者事業として「古民家屋根葺き替え見学デー」を実施。１０月１日から内部観覧再開。

▼（市指定天然記念物ケヤキ（福田）の樹木診断について）単木指定している樹木を対象に樹勢を診断し、倒木・落枝の危険度を判定。今後の管理計画を立てるために実施。平成２７年は、１０月２０日に福田地区のケヤキについて実施。福田のケヤキについてはほぼ健全という結果。深い空洞・腐敗等は見られない。下和田ケヤキ、福田タブノキ、深見神社ハルニレはそれぞれ推定樹齢５００年ほど。診断については順次４か年で実施。文化財保護指導委員の意見等を聞いて優先順位を決定する。

▼（つる舞の里歴史資料館企画展示について）歴史資料館企画展としては、人文系以外の分野としては初めて「地形・地層・地震～大和周辺の大地の成り立ち」を実施。地震や地盤について関心が高かったようだ。展示解説及び関連講座を開催した。展示期間：１０月２０日～１２月６日　来場者：１，０１２人来場。

▼（廻り地蔵及び関連資料（福田新道下外記名地蔵講中）の寄贈について）南部地区福田字新道下では、廻り地蔵という厨子に入った地蔵を廻していく行事を行っていた。この地蔵は「宿無し地蔵」、「子育ての地蔵」と言われていた。近年は１４軒で回していたが、行事の維持が困難となったということで市に相談があった。地域で祀ることも難しいため、大和市に寄贈したい意向があったため受け入れ。受け入れ資料は廻り地蔵（木造半跏地蔵）１躯、厨子、大数珠１連、関連用具一式。伏鉦については寄贈を受けていない（地域での葬儀の際に使うため）。機会を設けて市民にお披露目をしたいとは考えている。

○廻り地蔵の調査及び撮影はしているのか、また市指定文化財として指定はしているのか。

▼市史の民俗編に記載があり、民間信仰調査会で調査している。過去に撮影した映像あり。仏像、数珠、伏鉦については工芸品としての調査も行っている。指定はしていない。

○指定文化財にしたほうがよいのではないか。横浜などでも廻り地蔵。

○最初に行事を無形で指定し、道具は行事が完全になくなった時点で有形で指定ということもある。現在、鉦は地元で使うために寄贈してもらえないということであれば、市で新しいものを購入して古いものを寄贈してもらうことはできないか。博物館で職人の道具について過去そのように対応したこともある。

○鉦は指定追加でもよいか。ただし、所在を追跡把握していないと、なくなってしまうこともあるか。仏像はいつ頃のものか。

▼仏像に伴って木札が２枚入っているが(仏像修理の時か？)、江戸時代のものである。古い木札は寛政の年紀。

○厨子も比較的大きいため、民俗資料として指定できるのではないか。賽銭箱はあったのか？

▼賽銭箱は発見されていないが、かつてあったことは確かである。仏像は修理している。錫杖は欠損していたが、講中が鎌倉仏師に依頼して復元している。

○講の人が仏像をおまいりしたいという場合はどうするのか

▼それはできないという前提で寄贈してもらった。初めはどこかのお堂にまつってはどうかと投げかけたが、困難ということなので引き取った。

○寛政の銘もあるとのことで貴重である。委員から指定できないかという意見もある。是非市として検討してほしい。また、機会があったら一度見学したい。

３．その他

４．閉会